

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 4, 火 / Tue 5
開講期間 / Class period	2018/04/05 ~ 2018/05/29		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587010503	科目番号 / Subject code	05870105
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12711_005		
授業科目名 / Subject	現代経済と企業活動c (国際社会と日本経済) / International Societies and Japanese Economy		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	小山 久美子 / Koyama Kumiko, 岡田 裕正 / Hiromasa Okada		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	小山 久美子 / Koyama Kumiko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	小山 久美子 / Koyama Kumiko		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生(クラス等) / Target students	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	1、2回授業で言及		
担当教員研究室/Instructor office	経済本館502		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業終了後10分程度		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	経済活動は国境を超える。本授業は、国際貿易や国際貿易体制を取り上げ、歴史的に貿易自由化が進められてきた際にどのようなことが論点となってきたのかを米国を中心に考察する。		
授業到達目標/Course goals	いまや生活にとって不可欠な国際貿易だが、様々な貿易障壁が歴史的にどのように削減され、国際的な調和化や整合化がどのようになされてきたのかの説明ができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 受講者参加を求める F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	授業内各回の提出物orテスト(授業への取組み状況を含む) 85% レポート提出 15%		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	事前学習: 授業は各回繋がりがあがるため、理解を深めるため前回授業の復習を行い授業に臨んで下さい。 事後学習: レポート提出に備え、内容への自分の考えをまとめておくようにして下さい。		
キーワード/Key word	国際貿易、歴史、米国、貿易障壁、関税障壁、非関税障壁、国際的調和化/整合化		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しません。参考書は授業内で適宜言及します。 英文資料を使う場合があります。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites, etc.	前提知識は問いませんが、第二次大戦前の歴史も含みその後の国際貿易の通史や、米国史に関心がある学生の受講を希望します。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support_ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考(URL) / Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	授業に出て、逐次ノートをとって、理解に努めることが大切です。 授業中は、電子機器類の使用や机上におく等はできません。座席は、指示の通りに着席し、その他、注意事項や伝達事項(これらは授業内で通知)を守ってください。		
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	イントロダクション、授業の進め方/注意事項 国際貿易とは
2	貿易障壁とは 関税障壁 非関税障壁
3	貿易自由化の歴史 第二次大戦前：高関税の時代
4	貿易自由化の歴史 第二次大戦後：自由化へ 関税障壁から非関税障壁へ
5	国際貿易における調和化/整合化の歴史 食品基準のケース(1)
6	国際貿易における調和化/整合化の歴史 食品基準のケース(2)
7	国際貿易における調和化/整合化の歴史 標準(規格)のケース(1)
8	国際貿易における調和化/整合化の歴史 標準(規格)のケース(2)
9	国際貿易における調和化/整合化の歴史 人権(労働基準)のケース(1)
10	国際貿易における調和化/整合化の歴史 人権(労働基準)のケース(2)
11	国際貿易における調和化/整合化の歴史 人権(労働基準)の影響(1)
12	国際貿易における調和化/整合化の歴史 人権(労働基準)の影響(2)
13	国際貿易における調和化/整合化の歴史 その他のケースや近年の諸問題
14	国際貿易における調和化/整合化の歴史 その他のケースや近年の諸問題
15	総括

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2018/09/28 ~ 2018/11/20		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587011702	科目番号 / Subject code	05870117
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12741_005		
授業科目名 / Subject	現代経済と企業活動c (社会制度と経済活動) / Social System and Economic Activity		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	千野 厚 / Chino Atsushi, 岡田 裕正 / Hiromasa Okada		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	千野 厚 / Chino Atsushi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	千野 厚 / Chino Atsushi		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生 (クラス等) / Target students			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	achino nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	経済学部本棟 626		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールにて面会日時の予約要		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	金融市場が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを多面的に考察する。また、金融市場が効率的に作用するための制度・法律面に関する考察も行う。より具体的には、本講義の前半では、家計が金融証券の取引を行うことによるメリット、および金融取引を阻害する外的要因を考察する。次に、金融市場における金融機関の存在が、これらの阻害要因をどのように軽減させることができるかを解説する。講義の後半では、一般的な金融証券の価格の決めり方について学習をした後、これらの議論を踏まえて、日本の現在の金融システムおよび日銀の金融政策を俯瞰する。		
授業到達目標/Course goals	1. 金融取引のメリットおよび外的阻害要因を説明できる (?@?G?I) 2. 金融機関の役割および存在意義を説明できる (?B?G?I) 3. 金融市場の機能を包括的に考えることができる (?D?G?I) 4. 金融証券の価格を計算できる (?@?B?I) 5. 金融政策の手段、意義および限界を考えることができる (?D?G?I)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	期末試験(80%)および課題(20%)により評価を行う。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	教科書内における予習部分を、適宜授業で紹介していく。		
キーワード/Key word	市場、金融取引、金融制度		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書：森澤龍也著 『レクチャー&エクササイズ金融論』 サイエンス社 その他、ファイナンス論に関する参考文献は、授業時に適宜紹介する。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)	講義を中心に行うが、授業に沿った課題を、コースを通じて複数回与える予定である。教科書、その他、随時紹介する資料を基礎として、スライドを用いて講義を進める。講義スライド、その他の講義資料は、随時適切な方法で公開していく。		

学生へのメッセージ/Message for students	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ガイダンス
第2回	金融取引と資金循環
第3回	異時点間の消費・貯蓄決定
第4回	貨幣と利子
第5回	金融市場と金融取引
第6回	日本の金融機関
第7回	直接金融と間接金融
第8回	日本経済と金融システム
第9回	金融機関と情報の非対称性
第10回	逆選択とモラルハザード
第11回	金利計算の基礎
第12回	割引現在価値と資産価格
第13回	金融政策の目的と中央銀行
第14回	金融政策の手段と効果
第15回	非伝統的金融政策
第16回	期末試験

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2018/11/27 ~ 2019/02/05		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587012102	科目番号 / Subject code	05870121
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12751_005		
授業科目名 / Subject	現代経済と企業活動c (経営情報と会計情報)COC+ / Management and Accounting Information		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	岡田 裕正 / Hiromasa Okada		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	岡田 裕正 / Hiromasa Okada		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	岡田 裕正 / Hiromasa Okada		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Target students	医・歯・工・環境科学		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	h-okada nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	経済学部東南アジア研究所3階307室		
担当教員TEL/Tel	6-352		
担当教員オフィスアワー/Office hours	講義終了後		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	営利・非営利を問わず企業活動の目的は利益を獲得することである。しかし、利益の額は、計算してみなければわからない。ここに会計の主観性があり、これを秩序立てるために制度がある。この講義では、営利目的の企業を対象に、日本の会計制度の概要、会計情報(財務諸表)に記載される主な項目の意味と会計情報の簡単な見方を説明する。 なおCOC+に対応するため、県内の企業の例を取り上げることとする。		
授業到達目標/Course goals	1. 会計の知識(特に利益の意味、財務諸表に掲載される主な項目の意味等)を自ら学び、考えるための基盤を身につける(?@、B) 2. 専門分野を問わず専門職業人として求められる会計学の基盤的知識を習得する(?I) 3. 会計学の知識に基づいて長崎県内企業等の財務諸表を大まかに読むことができる(?I、D)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons(1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	講義への貢献(発言等)40%、テスト(またはレポート)60% 具体的には第1回目の講義で説明		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	第2回目の講義にあたり、LACSに掲載する簿記の概要を事前に読んでくること。 また、第1回目の講義で指示するが、各自がダウンロードした財務諸表(金融機関を除く)も教材とするので、PCまたは印刷媒体で毎回持参すること。		
キーワード/Key word	財務諸表の主な項目(資産、負債、純資産(資本)、収益、費用、各種利益の意味等)、日本の会計制度(会社法、金融商品取引法、法人税法)、簡単な経営分析、長崎関連企業(非営利組織を含む)		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書: 永野則雄『ケースブック会計学入門(第4版)』新世社、2014年刊 教材: 必要に応じて配布するほか、講義でも指示する		
受講要件(履修条件)/Prerequisites, etc.	特に設けないが、数字を見るのは嫌いという学生は、受講を控えてもらいたい。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考(URL)/Remarks(URL)			

学生へのメッセージ/Message for students	前提知識はとくに問わないが、経営や会計に広い関心を持ち、これらの分野の基礎知識の習得意欲を持つ者、自発的・積極的に学習を進めていく姿勢のある者の受講を希望する。また、新聞やネットに掲載される日々の経営に関するニュースに耳を傾ける努力を怠らないようにしてほしい。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	第1回?第5回は総論です。 身の周りの会計と本講義で対象とする会計：会計はほとんどの組織にも存在することを知らされた上で、この講義で対象とする会計を企業会計に限定します。また、これらの説明に先立ち、数字や金額とは何かということも考えてもらう予定です（ただし私は数学者ではないので、数字について専門的な説明はできません）。
第2回	簿記の概要：企業会計の技術的基盤である簿記一巡の流れを知ることが目的です。簿記については、あらかじめ、簡単な資料をLACSに掲載する予定です。事前に、これを読んでおいてください。これと合わせて、利益の計算には2種類あることも知ってください。
第3回	日本の企業会計制度の概要：日本の企業（営利企業ですが）に共通の、会計規制の枠組み（3つの法律（会社法、金融商品取引法、法人税法）とそれぞれの目的（理念））を知ってもらうことが目的です（業種によっては、規制する法律が異なることもあります）。講義にあたり、あらかじめ、企業（医学部や歯学部の方は病院）の倒産件数を調べておいてほしいと思います。
第4回	貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）：それぞれの記載の構成と大雑把な読み方を理解することが目的です。単純に「利益が出た」と言っても、どのような利益が出ているのが問題です。また、短期（1年以内）の借金を申し込まれたとき（または申し込むとき）どのような情報が必要でしょうか？こうしたことをわかってもらいたいと思います。
第5回	会計測定（購入した資産の金額の決め方、収益や費用の認識のタイミング）：会計では、金額が必要ですが、この金額はどのように決めるのでしょうか？現在は、多様な決め方をしています。また、単純に「商品を買った」と言っても、どのタイミングで売上という記録をするのでしょうか？発送時点？引き渡し時点？相手の検収時点？
第6回	第6回?第13回は各論です。 棚卸資産：商品と製品の違い、期末に売れ残った商品等をいくらとするかを話します。期末の商品の金額の決め方には様々な方法があり、そのいずれを採用するかで、利益の額が変わります。これを通じて、利益は一意には決まらないこと（つまり会計は唯一絶対の数値を表示するものではないこと）を知ってください。病院等では商品・製品はありませんが、薬品や医療材料がこれに相当すると思って聞いてください。
第7回	固定資産：流動資産と固定資産はどうやって区別するか、減価償却の方法等を説明します。減価償却にも複数の方法があります。このことも、利益は一意には決まらないことにつながります。企業だけではなく、学校でも病院でも固定資産は絶対にあるでしょう。これらは、長い年月使うことができます。商品や製品とは異なる会計の方法（その最たるものが減価償却といわれる方法）について学びます。
第8回	有価証券：会計上の有価証券の意味と保有目的に応じて金額の付け方が違うことを学びます。小さな会社や病院ではあまり問題にならないかもしれませんが、会社は証券市場で株式投資をして、例えば配当や売買差額で利益を出すことも行います（金融機関に限りません）。その会計の方法から、なぜ年度末の株価が問題になるかをわかってほしいと思います。
第9回	社債と引当金：負債にもたくさんの種類がありますが、社債と引当金に焦点を当てます。例えば、私たちが何気なく使っているポイントは、販売した店（コンビニなど）では、どのように会計しているのでしょうか？全体を話すことはできませんが、こうしたことにも引当金は関連します。
第10回	現在の会計の基礎理論とその変化：今の日本の会計の基礎となる費用収益対応の原則を通じて、なぜ期末の売残りの商品を資産とするか、減価償却をするか、引当金が必要かを考えます。他方で、それとは異なる国際財務報告基準（IFRS）についても紹介します。現在の日本では、上場企業が任意で適用している方法ですが、自治体の会計も国際的に標準化しようという話があります。
第11回	純資産会計：貸借対照表の純資産の部の構成要素の意味を知る。純資産は、企業の資産総額と負債総額の差額です。この構成要素は複雑です。この概要を学びます。
第12回	収益・費用の会計：収益と費用の認識のタイミングに関する考え方（実現主義（原則）と発生主義（原則））を理解してもらいます。大切なのは、これを通じて、収入 収益、支出 費用であることです。「黒字倒産」（利益があるのに倒産）が生じるのは、この考え方の違いがあるからです。
第13回	企業集団の会計：子会社・関連会社の範囲と連結財務諸表の概要を知ることが目的です。例えば、Vファレンの株を持っている会社はどこでしょうか？一口に「企業集団」というけれど、これに入る企業とそうでない企業を区別する基準について説明します。
第14回	ここからは、これまでの話に基づき作業してもらいます 財務諸表の見方：収益性分析として、売上高利益率、資本回転率、資本利益率、流動性（支払い能力）分析として、流動比率や自己資本比率を説明します。これだけで企業（非営利組織も含む）の状態が完全にわかるわけではありませんが、ざっくりとみることはできるでしょう。これに基づいて、いくつかの会社の財務諸表を調べてもらうことを宿題にしたいと思います。
第15回	財務諸表の見方（続）：前回の話を受けて、調べてきた結果を報告してもらいたいと思います。
第16回	全体の総括